

大正、昭和の一コマ 豆紙人形に

大正・昭和の伝統行事や暮らしを母娘2代にわたって小さな紙人形で表現した「豆紙人形・母娘展」が27日まで神楽坂のギャラリーで開かれている。

テーマは「再生と希望」。晩年、紙人形作りを生きがいとした母の前向きな生き方を東日本大震災後の人々に伝えたいとの娘の思いが込められている。

「再生と希望」テーマ 神楽坂で母娘展

（67）「本名・相澤穂子さん、横浜市港北区」の作品計170点。和菓子の包み紙や神輿、ようじなどを再生利用した大きさ5センチ前後の紙人形で、「お手玉」「金魚すくい」など懐かしい子供の遊びや祭りの一コマが切り取られている。

マサコさんは89歳で右目を失明。白内障を患う左目の視力を頼りに88歳から紙人形作りを始め、米シアトル、パリで海外展覧会も開いた。いじめ

「子供の遊び」を表現した豆紙人形（手前と作者のヒロコ・ムトーさん）新宿区の「アートギャラリー・カグラサカ」で

克服を目指し、母の一生を各地の小中学校で講演してきたヒロコさん。夫の一悶着を経て、「心の穴を埋める」ため、約1年前から紙人形作りで母の後を継いだ。

マサコさんが晩年、自宅のベッドから見える西空の移ろいをはがきに描いた水彩画49点も同時展示されている。母が手がけた未売の紙人形連作「東海道五十三次」を完成させ、水彩画を出版するのがヒロコさんの夢だ。

会場は新宿区矢来町1-4、高橋ビル地下1階の「アートギャラリー・カグラサカ」(03・5522・7117)。入場無料。午前11時〜午後5時（最終日は午後4時）。【福島良典】

